

保護者の声をカタチに ～学用品をリサイクルして学校の備品に～

キーワード 保護者の負担軽減 / SDGs / 学校教育支援 / 運営の工夫 / コロナ禍の活動

取組概要

コロナ禍で小中合同バザーが開けないため、学用品を安く手に入れたい保護者と卒業などで不要になった学用品を持つ保護者の意見を参考に、学校と協議して学用品と制服のリサイクルに取り組む。

取組みの詳細

○学用品をリサイクルして学校の備品に

学校と協議して、鍵盤ハーモニカと算数セットを学校備品にするため、保護者に不要となったものの寄付を呼びかけ、備品化を実現。

このほか書道セットや絵の具などの学用品の寄付もありました。

○制服リサイクル

授業参観や通知表渡しなど保護者が集まるときに実施。チラシで寄付のお願いと無償配付を案内。



▲学用品（左）と制服（右）をリサイクルボックスで回収

成果

- 保護者間には助け合いの精神が、児童には物を大切にする精神が醸成された。
- 児童の学習環境の充実が図られた。

課題や今後の取組み

- 寄付された学用品や制服の管理のほか、継続して実施するためには保護者の協力が欠かせない。検証を重ねながら進めていく。

その他の取組み紹介

- 責めたりしま宣言…コロナ禍での思いやりの心を育むため、金沢市立南小立野小学校育友会さんの「責めたりしま宣言」に賛同し、鳳至小PTAも宣言。学校のほか公民館などにポスターを掲示。
- 金管鼓隊支援…資源物回収や親子楽器清掃を通し、輪島市民まつりにおける金管鼓隊の活動を支援。

所在地

石川県輪島市

全校児童数

161名

地域の特徴

輪島市は能登半島の北西にあり、豊かな緑と海に囲まれている奥能登で最も大きい市です。鳳至小学校がある地域は漁業のほか、伝統工芸「輪島塗」の生産が盛んです。400年続く海女漁を含む「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されており、日本遺産第1号に認定された「能登のキリコ祭り」やユネスコ無形文化遺産に登録された「面線年頭」など伝統行事が連綿と引き継がれています。

学校の特徴

輪島市の中心部に位置し、近くに輪島港や輪島市市があります。明治6年の輪島小学校を前身として昭和30年に創設。教育目標は「創造性豊かで、頼もしい人づくり」。伝統的金管鼓隊バレードが地域の皆さまに愛されている学校です。

組織構成

評議員会		総会	
役員会	学 教 長	6年学年委員	6年生保護者(担任)
会 長	2名選出	5年学年委員	5年生保護者(担任)
副会長(若手)	2名選出	4年学年委員	4年生保護者(担任)
庶 務(2名)	2名選出	3年学年委員	3年生保護者(担任)
金 計(2名)	2名選出	2年学年委員	2年生保護者(担任)
監 査(2名)	2名選出	1年学年委員	1年生保護者(担任)

担当課：石川県教育委員会
生涯学習課

基礎情報

所在地

石川県かほく市

全校生徒数

226名

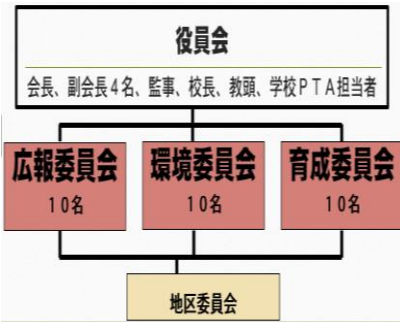
地域の特徴

本校は、石川県かほく市の北部に位置し、東に遙か宝達山を仰ぎ、西は日本海に面した自然に恵まれた地域にある。西側は砂丘地を中心に市街地となり、繊維産業、情報通信産業の他、かほく市の特産品である「高松ぶどう」等のぶどう栽培が盛んである。近年は石川県立看護大学周辺を中心に町並みが整備され新しい市街地が形成されている。

学校の特徴

温厚で素直な生徒が多く、落ち着きがあり、どの活動にも真面目に取り組む。生徒会活動が活発で、執行部、各委員会が毎月、様々な企画を工夫し、活動に取り組んでいる。また、ジュニアボランティアサークル「絆」の活動も活発である。

組織構成



担当課：石川県教育委員会
生涯学習課

石川県

かほく市立高松中学校PTA

明るい学習環境を作るために、企業の援助、保護者の協力を得て！

キーワード 地域学校協働活動 / コミュニティスクール / 企業連携 / 社会教育士 / 外部人材活用

取組概要

子どもの教育活動・教育環境が少しでも充実するよう、保護者の協力、外部人材の活用を図る。また、保護者の研修の機会を提供する。

取り組みの詳細

①企業連携

【経緯】

普段生徒たちが生活している教室前の廊下の壁が、雨の浸食により剥き出しになり、老朽感があった。

校区の小中学校でトンネルアートを実施する際、日本ペイント金沢営業所の協力を得ていると聞き、依頼した。企業協力を得て壁の補修作業（ペンキ塗り）を実施できた。

【当日】

2日間のべ100名以上のPTA参加があり、廊下の壁は白く、明るい壁に生まれ変わった。

【協力】

- ペンキ、道具一式等はすべて無償で提供。
- 当日も塗り方等のレクチャー。

②食育講座

保護者の理解をより一層深めるため、給食試食会を開催した。生徒たちと同じメニューの給食について知る機会となった。昼食後、栄養教諭による食育講座を行った。



①日本ペイントさんから講習を受ける様子



②保護者がペンキ塗り（下塗り、上塗り）



成果

- 校内人材だけではできないことを、外部企業との連携、保護者の協力を得て、大きなPTA行事を成功させることができた。
- 食育講座（保護者の学習会）を外務講師（栄養教諭）を招聘して実施した。

課題や今後の取り組み

- 親子の絆を深めるため、親子で参加できるPTA行事の企画。
- 保護者に学習の機会の提供。

その他の取り組み紹介

コミュニケーションウィークの取組
・市PTA連合会による市内共通の取組。毎年共通テーマを設定し、親子で会話する機会を増やすことを目的として実施。

組織・運営の工夫

地域協働・連携

学びに関する活動

生活指導活動

その他

基礎情報

所在地

石川県野々市市

全校生徒数

830名

地域の特徴

野々市市は石川県のほぼ中央に位置し、北東部を金沢市と接している。東洋経済が発表している「住みよさランキング」において毎年上位に選ばれている。美しい自然に囲まれながらも買い物などがしやすい環境が高評価となっている。

学校の特徴

昨年創立40周年を迎えた県内では、中規模の大きな普通科高校。「自ら考え、判断し、責任ある行動を取れる」力の育成を目指し教育活動を行う。素直で真面目な生徒が多く、広く明るい校舎や県下に誇る広いグラウンドなど充実した施設で、日々学業や部活動に励んでいる。

組織構成

常任理事（会長・副会長・会計）
会長1、副会長各学年3、会計1
・教育活動支援と保護者自らの研修
・明倫祭では「おやじの会」を結成

理事（広報・母親・育成）
広報と母親各学年6、育成第1学年4
・校内で取材、会誌発行
・明倫祭で「Mama's Cafe」を実施
・校外で研修や地域巡回

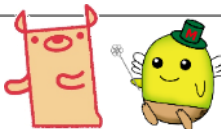
総会（保護者、教職員）
・朝の挨拶運動

常任理事と理事は協力しあっており、双方に顔を出す役員もいてコミュニケーションは円滑。

担当課：石川県教育委員会
生涯学習課

石川県

石川県立野々市明倫高等学校PTA



♡みんなに愛されるキャラクター

(左) 野々市市「のっティ」
(右) 明倫高校「りんくん」

『自慢の高校』として 地域のまんなかで

キーワード

朝の挨拶運動 / 野々市市少年育成センターなど市との連携 / 広報誌「めいりん」 / M=1プロジェクト

取組概要

明倫高校PTAの「朝の挨拶運動」は20年以上の歴史。野々市市との連携も深く、生徒の成長を保護者と地域まるごとで支援。

取り組みの詳細

朝の挨拶運動

point① 家庭と連携

挨拶の大切さ、素晴らしさを保護者から伝えよう、という呼びかけに60~70%の保護者が協力、笑顔で生徒を迎えている。

中には子どもが卒業した後も10年以上パワフルに声をかける「名物」的な保護者もいる。



point② 地域と連携

全市をあげて展開する野々市市の「5万人あいさつ運動」では、市内各所であいさつの声が響く。学校でも市ののぼり旗を掲げ連携している。時には市の職員が保護者や生徒と一緒に挨拶してくれる。



PTAと地域の連携

Point① 少年育成センターとの連携

毎年数名の育成委員を選出し、市の連絡会参加及び地域での見守り活動を年間12回行っている。参加者は情報交換と直接の見守りを通して地域の子どもの様子を知り、センターの学習会では社会の「いま」と子どもたちの「未来」を多面的に学び、活動に活かしている。

Point② “ののいちっ子を育てる”市民会議等との連携

本校PTA代表者が参加し、子どもたちの健やかな育成のための環境づくりに努めている。



成果

「登校してくる生徒の表情を見ながら親同士が自然な形で交流（保護者）」でき、「市の自慢の学校（市長）」として大切にされて、生徒たちが地域でさまざまな活躍・貢献できている。

課題や今後の取り組み

多忙のため活動に参加できない保護者がいる。参加のハードルを下げ、本来は忙しい人こそ必要な「繋がり」をいかにつくるかが課題である。

その他の取り組み紹介

M=1プロジェクト(令和2~4年)

コロナ禍でみんなを守ろう、一丸となって乗り切ろう、と感染予防や差別防止を呼び掛けるポスターを作成。地域ぐるみで取り組んだ。広報誌「めいりん」(創立~現在) 広報委員が年2回発行し、楽しい企画記事や保護者目線の記事が人気。

明倫祭PTA模擬店

「Mama's Cafe」「おやじの会」が毎年賑わいに花を添えている。



M=1プロジェクト作成のポスター

組織・運営の工夫

地域協働・連携

学びに関する活動

生活指導活動

その他